

1) 調査体験での気づき

ヤスデは身近な生き物でありながら、今まで特にスポットを当てて注目したこともありませんでしたが、8年かけて成体になり、同じ個体群は皆同じ年齢、という不思議なライフサイクルを持つキシヤスデの生態に、とても興味を持ちました。成長とともに土壤環境を整えてくれる、自然環境やあらゆる生物にとってとても重要な存在であると改めて感じました。同時に1つの個体群が同世代であることは、環境の変化や何かしらの影響で一気に個体群ごと絶えてしまう危険があり、今後の調査保全活動が重要だと感じました。



2) 調査内容からの企画 秋の動物園まつり「学び舎ブース」について

- ・調査体験報告のポスター展示
- ・キシヤスデのライフサイクル表の展示
- ・キシヤスデの生体展示
- ・園内より採集した腐葉土を使用した体験型の展示
(来園者に実際に土壤動物を採集してもらうための、「探してみよう！落ち葉の下の動物たち」コーナーを設置、採集した生物を虫眼鏡や携帯顕微鏡で観察してもらいました)
- ・事前に採集した土壤動物の生体展示



3) 企画・展示の体験者の反応や感想

体験コーナーの反応が良かった。とくに子供たちが夢中になって生物を探していたが、大人の方の反応も良かったのが印象的だった。土の中にはどんな生き物がいるのか、それらは何を食べているのかなど質問もたくさん受けた。ヤスデとムカデの違いについての説明はとても反応が良かった。キシヤスデを知っている方も多かったが、生態まではよく知らなかったと驚き興味を持ってくれた来園者も多かった。

4) 企画を実施した感想

普段はあまり注目されることのない土の中の生き物たちですが、こうしてスポットを当てて展示をしてみると、たくさんの方々が興味を持ち、体験し、観察をしていました。子供も大人の方にも楽しんでいただけたようで良かったです。自分自身も体験企画を通して学ぶことが多くあり、今回の体験を是非今後の活動に活かしていきたいと思いました。

5) 体験を語ることによる学びへの影響

今回ヤスデの調査を体験させていただき、自分自身は動物園で働きながらも今まであまり着目してこなかった土壌動物についてたくさん学ぶことができましたが、今回の企画では来園者の方々に、まずは土壌動物とはどんなものか、身近な土の中にたくさんの小さな動物たちがいる、こんなの見たことない、などと楽しく観察して興味を持ってもらえることが目的となるような展示にしました。動物園の動物たちにも同じことが言えますが、まずは興味を持ってもらい、その生き物についてもっと知りたくなる、と思ってもらえることが、行く行くは自然環境や野生生物の保全にも繋がっていくと思いますし、たくさんの方にそう思ってもらえるようなきっかけを作るのも、動物園の役割の1つだと改めて感じました。